

1 白斑病

A 生態と防除のねらい

- 1 晩秋から初冬にかけて雨の多い年に発生が多く、酸性土壌、早まき、連作、生育途中の肥料切れ等により発病が助長される。
- 2 病原菌は発病葉の組織内に菌糸で越冬し、翌年の伝染源となるので、収穫時に発病葉を処分する。
- 3 薬剤防除は結球初期から予防的に行う。

B 耕種的防除法等

- 1 耐病性品種を用いる。
- 2 秋作では早まきを避け、適正な施肥を行う。
- 3 発病葉を処分する。

2 黒斑病

A 生態と防除のねらい

- 1 病原菌は種子伝染するほか被害葉について伝染するので、健全な種子を用い、収穫時には被害葉を処分するなどほ場の衛生管理に努める。
- 2 秋作では早まきのものに発生が多く、肥料切れは発病を助長するので、発病ほ場では早まきを避け、適正な施肥を行う。
- 3 薬剤防除は結球初期から予防的に行う。

B 耕種的防除法等

- 1 秋作では早まきを避ける。
- 2 適正な肥培管理を行う。
- 3 発病葉を処分する。

3 べと病

A 生態と防除のねらい

- 1 晩秋及び春期の低温多湿時に発生が多い。密植などにより通風採光が悪いと発病を助長するので、間引きを早めに行って、適正な株間とする。
- 2 収穫時には被害葉を処分するなどほ場の衛生管理に努める。
- 3 発病しやすい時期には特に、発生に注意し、発病初期から薬剤防除を行う。

B 耕種的防除法等

- 1 間引きは早めに行い、通風採光を良くする。
- 2 適正な肥培管理を行う。
- 3 発病葉を処分する。

4 根こぶ病

A 生態と防除のねらい

- 1 病原菌は被害部の組織中に形成された休眠胞子の形で土壌中で越冬し、土壌伝染するので、発病ほ場ではアブラナ科作物の連作を避ける。
- 2 酸性土壌での発生が多い。本病は土壌pHが7を超えると発病が少なくなる。
- 3 土壌水分が多いと多発するので、低湿地では排水を良くし、高畦栽培を行う。特に、発芽後2週間の土壌水分が発病に顕著に影響する。
- 4 移植栽培では育苗期の感染、発病もみられるので、苗の発病に注意し、健全苗を植え付ける。
- 5 フルスルファミド剤（FRACコード：36）とフルアジナム剤（FRACコード：29）は休眠している卵胞子や厚膜胞子の発芽を抑制する作用で感染を防ぐ。一方、アミスルブロム剤とシアゾファミド剤（FRACコード：21）は、休眠している卵胞子や厚膜胞子が発芽してできる遊走子のうや遊走子のうから放出される遊走子に対して作用することで感染を防ぐ。そのため、FRACコード：36、29の薬剤とFRACコード：21の薬剤を本ほ内では併用しない。

B 耕種的防除法

- 1 耐病性品種を用いる。
- 2 発病ほ場では2～3年間アブラナ科以外の作物を栽培する。
- 3 床土は無病土を用いる。
- 4 低湿地では排水を良好にして高畦栽培をする。
- 5 石灰質資材や転炉スラグを施用し、土壌酸度を矯正する。
- 6 根こぶが腐敗する前に被害根を除去する。

C 薬剤防除のポイント・注意事項

フルスルファミド剤（FRACコード：36）、フルアジナム剤（FRACコード：29）とアミスルブロム剤、シアゾファミド剤（FRACコード：21）を本ほ内で併用しない。

5 軟腐病

A 生態と防除のねらい

- 1 一般に、夏期高温時には種した場合に発生が多い。但し、晩秋から冬にかけて温暖多雨な年や生育前期に雨の多い年にも発生が多いので、秋作では早まきを避けるとともにほ場の排水を良くする。
- 2 本病は土壌伝染性病害できわめて多犯性の病害であるため、腐敗株を除去し、ほ場の衛生管理に努めるとともに、マメ科、イネ科作物などと輪作し連作を避ける。
- 3 薬剤防除は8葉期頃から結球初期まで予防防除を行う。
- 4 病原菌は傷口や食害痕から侵入するので、食葉性害虫の防除を行う。



B 耕種的防除法等

- 1 連作を避け、イネ科またはマメ科作物と輪作する。
- 2 ほ場の排水を良くする。
- 3 秋作では早まきを避ける。
- 4 被害株を処分する。

6 ウイルス病

A 生態と防除のねらい

- 1 モザイク病は、カブモザイクウイルス (TuMV) 及びキュウリモザイクウイルス (CMV) により引き起こされ、えそモザイク病はTuMVにより引き起こされる。いずれのウイルスもアブラムシ類により伝搬される。生育初期に感染したもののほど被害が大きいため、ソバなどの間作をするか、プラスチックシルバーフィルム等でマルチ栽培を行い、アブラムシの飛来を防止する。
- 2 秋まき栽培では早まきすると発生が多いので、できるだけ遅まきする。

B 耕種的防除法等

- 1 移植栽培では育苗期は防虫ネットで被覆する。
- 2 秋まき栽培ではできるだけ遅まきする。

C 薬剤防除のポイント・注意事項

媒介虫の防除を行う(アブラナ科虫害の項を参照)。

TuMV、CMV：アブラムシの防除を行う。